

平成18年6月9日

地域における包括ケア体制の確立を目指して
～多職種連携に基づく生活機能評価～

松江市介護保険課
乙部有紀郎

松江市の概要

1. 人口：194,241人 ※H8.4.1.現在
2. 高齢化率：22.6%（後期高齢者：49.9%） ※H8.4.1.現在
3. 認定率：17.0% ※H8.4末現在
4. 利用率：78.8% ※H8.4.利用実績（暫定）
5. 保険給付費：10,372,374千円（在宅サービス52.3%） ※H17見込
6. 保険料：第1期3,140円 第2期3,460円 第3期3,980円
7. 介護保険は、平成12年、旧松江市、八束郡（8町村）で一部事務組合で共同実施。平成16年3月、旧松江市と八束郡（7町村）と合併。
8. 日常生活圏域は、地域福祉計画の地域ブロックと同一の5圏域に設定。

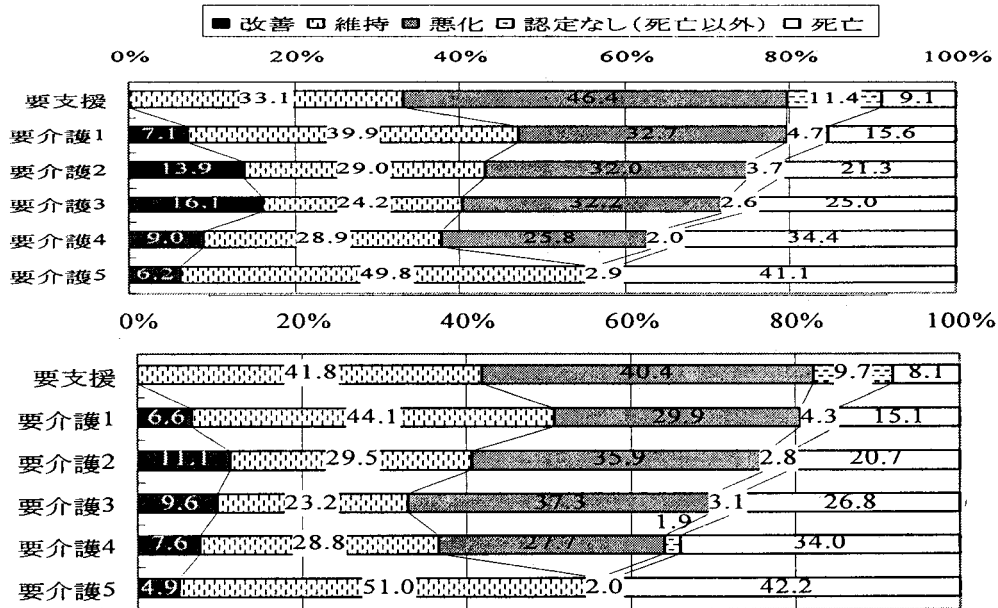
松江市でのこれまでの取り組み

2000年	<ul style="list-style-type: none"> ○要介護度の経時変化の実態把握 ○高齢者の機能低下の実態把握
2003年	<ul style="list-style-type: none"> ○歩行／摂食機能の実態把握と既存サービスの効果評価 <ul style="list-style-type: none"> ①健康高齢者と軽度要介護者間の生活機能の差異の検証 ②アセスメント／効果評価項目の検討 ③既存サービス（パワーリハ等）の効果評価の実施 ○事業者間の情報交換システムの開発
2004年	<ul style="list-style-type: none"> ○軽度要介護者等へのリハビリプログラムの構築 (通所介護を中心に、継続実施可能なプログラムを開発)
2005年	<ul style="list-style-type: none"> ○住民に対する生活機能アンケート調査 ○地域支援モデル事業の実施(課題の抽出) ○介護予防効果評価用システムの開発

実効ある介護予防の実施に向けて ～これまでの取り組みの課題～

- ア) 非該当者及び軽度要介護者の生活機能の実態
 - 認定調査項目／日常生活活動状況からみた差異
 - 認定申請者と非申請者間の差異
- イ) 歩行／摂食機能向上のためのサービス開発と効果評価
 - 筋力向上・ストレッチ体操
 - ブラッシング・嚥下体操
- ウ) 専門職との連携体制の検討
 - アセスメントに基づく専門職との連携のルール化
 - 医師会／歯科医師会との連携
- エ) サービスの効果評価の仕組み作り
 - アセスメント項目及びアセスメント担当者の検討
 - データ収集のためのソフト開発

要介護度の変化の状況（上段：H12/H14、下段H14/H16）



介護予防・リハビリプログラムの実施(H16)

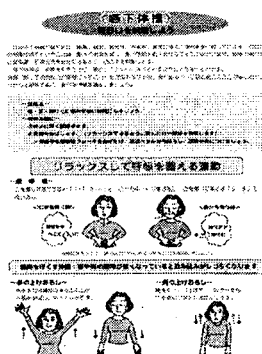
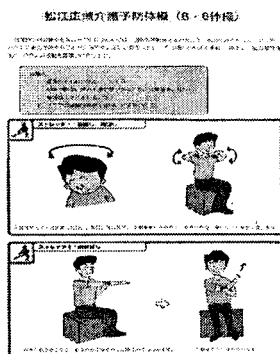
1. 自宅でもできるリハメニューの開発、実施
2. 専門職のバックアップ、連携体制の確立
3. 生活機能の把握と評価

(参加者) ○歩行：26事業所（約400名）

（通所介護11、通所リハ6、転倒予防教室等6、パワーリハ3）

○摂食：23事業所（約200名）

（通所介護11、老健8、療養型4）



健康な高齢者と要支援者等の差異（日常生活状況）

一次判定 評価項目	非該当 相当者 (N=170)	要支援 (N=105)	要介護1 (N=103)	要介護2 (N=21)
交通機関の利用 「自立」	80.7%	26.3%	30.2%	10.0%
外出頻度 「週4日以上」	62.8%	31.4%	30.4%	20.0%
過去1年間の転倒 「あり」	14.8%	30.8%	45.6%	52.4%
転倒に対する不安や外 出を控えること「あ り」	25.0%	47.1%	60.8%	66.7%

多職種連携の推進(特に医療系サービス)

1. 情報提供項目の検討と具体的連携ルールの構築
 - (1) 主治医による医学的観点からのリスク評価と連絡ルールの構築
...地域支援事業では、診療情報提供書を作成
 - (2) サービス開始時のルール作り（地域支援事業、新予防給付）
...運動開始時のチェックリストの作成
（血圧・脈拍測定、「熱がある」などの問診項目）
 - (3) 歯科医師への連絡ルールの構築
 - 利用者の自己チェック項目
「口から食べ物がかぼれることがある」など
 - 地域包括支援センター職員の評価
「ば・た・ら・か」の発音、入れ歯の適合性」など

（歯科医師会の協力体制：口腔機能評価、相談機能）

- ・通所系事業所等協力歯科医
（通所介護：47事業所、通所リハ：13事業所）
- ・地域包括支援センター協力歯科医（70歯科医院）